

## まずは 35 ヘクタールで苗木植栽が完了

— アラー川源流域の土壌保全と収入向上事業 —

この6月、レイクセブ町南部、シチオ・タブロのアグロフォレストリー事業が完了しました。最終的成果を目にするのは、3000本のコーヒーが実を付け、7000本のゴムの木から樹液が採取できる5-7年後ですが、9月に移植し、根を張り始めたコーヒー苗等の土壌侵食防止効果はまもなく出てきます。樹間のコーン、根菜類栽培の傍ら、苗周り1mの除草などの手入れを続けることになっています。以下、PFP 写真報告からご紹介します。

ゴムの苗木移植実地研修：等高線状に、4m x 10mの間隔で穴を掘って植えていきます。



同じ緑の募金で4年前に事業を実施した、スララ町マダルの農場(←)と、ミミズによる土作り(↓)を見学。大きく育ったゴムの木に、夢を膨らませる住民



タブロの事業地域には、「緑の募金の助成による、住民、町役場、PFP、HANDSの協働事業」と記した立て札が掲げられました。

### \* COWHED 短信 \*

長くマネージャーを務めたジェマさんから、その役職を引き継いだジェナリンさん。就任まもなく、縫製を一手に引き受けていたピポットさん急逝(3月)の試練にあいきましたが、6月訪問時には、注文品を揃えて待っていてくれました。ピポットさんの親族や組合員を総動員して仕上げたようです。私たちもこれまで同様に、販路拡大でCOWHED組合員を支えたいと思います。

## ボルールの小規模アグロフォレストリー報告

— WE21 ジャパンみどり助成事業 —

昨年、富士ゼロックス端数倶楽部の支援で、竹串の作業場兼乾燥施設を作り、その共同出荷から本格的に始動した BOSDA (ボルール持続可能な農村開発組合) は、前号でご紹介のように、今年は、小規模(3ha、直接受益者6世帯)の森林事業を実施しています。

ボルールはサウスコタバト州の州都コロナダル市域内の村ですが、ロハス山系の一部に位置し、雨期にはよく車が立ち往生します。6月訪問時には、BOSDAの役員4名(全員元HANDS奨学生)、及び、組織運営の助言をお願いしているメルチさん(元COWHED組合長)に、市内中心部に出てきていただき、昼食をはさんで打ち合わせしました。

以下、事業の進捗状況です。

- \* ゴムとコーヒーの苗木は、あと少し苗床で養生して、8月までには移植したい。
- \* 当面の収入源であるピーナッツは順調で、初出荷が近い。
- \* ボニファシオが講師の技術と環境保全に関する研修には、20名が参加した。
- \* 竹串の共同出荷は、乾燥施設のおかげで、雨期も順調だが、市場価格は不安定で、収益向上の実感はまだ少ない。



種まきして37日目のピーナッツ畑とボニファシオ。

今年は、BOSDAで農業指導をするとともに、レイクセブ町では、PFPスタッフの助手として働き、住民指導の方法等を学ぶことになっています。

### —道が川になった！ 雨期のティヌオス訪問—

助成内定(6月末決定)の地球環境基金による事業地域、レイクセブ町のティヌオスを訪ねました。滑って転んでという雨期に山の村を訪ねる大変さをここでも体験しました。泥水が山や道を激しく流れ下る、樹木が消えた山の土壌侵食の実態を目撃しました。

20世帯20haのゴムの木を核とするアグロフォレストリーと5haの在来種樹林の事業は始まったばかりです。次回は先住民族学校の子ども(関連記事P3)と一緒に苗木を植えたいと思います。ご一緒しませんか？ (山崎)